

# 製本のススメ

Vol. 167

令和となりました 即位も無事に進んで令和天皇誕生ですね。しかし今年は休日が多く、企業は売り上げ確保に四苦八苦です。改革も良いですが「ゆとり教育」の様な結果になるのではと懸念されます。国の経済力は 私達のような中小零細企業が支えていることを理解してもらいたいものです。

今回は**裏長**の話し

製本用語で折った時に中央から後半のページの呼び方ですが、主に中綴じで使われます。中綴じ加工では半分に折られた山型の背部分にステッチャー止めを行う都合上 中央から分けて表側（前半）・裏側（後半）となるわけです。

さて中綴じ製本のページ付けについてはお分かりと思いますので、今回は面付けの際の注意事項をいくつか書き示しておきましょう。

無線綴じと大きく違うのは用紙への印刷位置です。四六判や菊判であれば余白も取りやすいのですが コスト面もあり最近ではトンボすらつけられない用紙サイズでの印刷も増えてきました。こうなると「あと2ミリ端に寄って印刷されていれば・・・」という事もしばしば起こります。

中綴じ加工は1台ずつ入紙（挟み込み）していく加工法です。そのため折り丁を中央から開いて次のページ台を入れる必要があり、**その折り丁を開くための「つまみ」が必要なのです。**そしてこの**「つまみ」を裏長に作る**ことが求められます。多くの方は表長になるように印刷をしています。おそらく無線綴じのイメージが抜けないのではないのでしょうか。

発注する製本会社の設備によっても違いますが 中綴じの鞍（折丁を乗せる台）は5台程度です。言い換えれば6台目以降は 一度入紙したものを使用することになります。すると**「つまみ」が無ければ作業ができません。**

ページ数（台数）の多い冊子は 事前に加工会社へ版の付け方を確認（相談）しておくのが最良です。印刷してしまてからではトラブルの元ですね。



## Tea break

6月1日から学校や職場でも衣替えとなりますね。これは普段着が和服だった頃裏地付の「袴」から「単衣」に変えた風習が残っているものです。明治になって洋服を着るようになって政府は6月1日を夏の衣替え 10月1日を冬の衣替えの目安としたそうです。しかし今ではオールシーズンの様なハイテク衣料もでて、季節感覚も変わってきました。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本

Instagram は「Atelier703」